

カブト虫を若葉の森に放してあげよう！！

学校法人中沢学園 会津若葉幼稚園（福島県 会津若松市）

～若葉の森ならいいよね～

子どものつぶやき

教師の願い

【6月】 園での活動

- ・近隣の果樹園の方からカブト虫の幼虫をいただけることを保育者から聞き、「早く行きたい！」「僕、捕まえられるよ」と意欲的に出掛けた。
- ・いただいてきたカブト虫に、年少・中クラスの子もが大変興味を示したので、保育者間で相談して3、4オクラスにわけた。



初めて見たよ！！
大きいでしょ？
驚き・喜び

たくさんカブト虫になるといいな
願い

小さな変化も逃さずに見て欲しい
「昨日より(皮の)色が濃くなってきたね」
かわいいな



本当だ！始めは白かったのにどんどん茶色になっていくね
発見

やったー！

カブト虫、ここ(ケースの中)じゃせまいんじゃない？逃す？
悩み・疑問

どこに？

「僕達の若葉の森には、虫がたくさんいるよね。」
「カブト虫はコナラとドングリの木が好きだってお父さんが言ってた！若葉の森だったらカブト虫の好きな木があるし、また会えるもんね。」
「それ、いいかもしれない！！」
ひらめき

あれっ？

世話をしていくにつれて、カブト虫が生きていく上で「一番良い場所はケースの中ではない」事に気がついてほしい



カブト虫になった！！
かわいい！
喜び・感動・愛着

カブト虫は何を食べるのかな？調べてみよう！



それがいい！

よしっ！若葉の森に放してこよう！

【7月下旬】 森での活動

みんなで話し合い、カブト虫が好きなどんぐりの木があり、昨年度年長クラスが苗を植えた『どんぐりのみち』に放しに行く。

子ども達の手で、森に放して欲しい・・・初めて触れる幼児もいるので、その子のペースを見守りながら**順番に1匹ずつ**放した。

えさは、どうする？置いてってあげた方が良くないかな？ **提案**



友達できるかなあ・・・
心配

僕達がいなくても大丈夫かなあ・・・
心配

嬉しそうだね

放したカブト虫の動きをじっくり観察する事でカブト虫の気持ちに寄り添い、若葉の森をより身近に感じ、**自然を守る気持ち**へとつなげたい。

大きくなってね！元気でね～！また会いにくるからね～！

願い・期待



広い所で遊べて嬉しそうだよね **安心**

どんどん高く登って
いってるね
喜び・安心・淋しさ

元気でね！

その後、探検をしている時に、カブト虫の死骸を見つけた。

カブト虫
かわいそうだね

カブト虫が死んでる！！

アリだってお腹がすくんだよ。
食べないと死んじゃうもん

カブト虫に寄り添った思い

二つの見方

アリに寄り添った思い

みどころ

虫を飼育する楽しさを味わいながら、生き物への愛情、生き物の特徴、飼育に関する知識や技術、生長や変容への興味など多くの経験ができるように工夫をして保育を進められたことが分かります。

特に、「カブト虫を放す」という活動は、子どもたちを取り巻く環境として位置づいている若葉の森や、自分たちで苗植えをした「どんぐりのみち」をより身近なものにするとともに、「自然を守る気持ち」を培いたいという保育者の願いにつながることが分かります。「カブト虫が生活するにはこの飼育ケースは狭いのではないかな？」という疑問をきっかけに、カブト虫が本来どのように生活することが望ましいのかということを考え、具体的に「カブト虫の好きなどんぐりの木がある所がいい」ということに気付けたのは、イメージできる若葉の森があったからです。

子どもたちを取り巻く環境、自然や生き物とのかかわりの実態などによって、飼育活動のあり方も違います。実態を十分に把握し、子どもたちが主体的に活動することで、保育の目的や保育者の願いが達成できるようにすることの大切さが、この事例からよく分かります。